

## 2012 年硕士研究生入学初试试题

科目代码: 707 科目名称: 基础日语

注: (1) 本试题共 12 页。

(2) 请按题目顺序在标准答题纸上作答, 答在题签或草稿纸上一律无效。

一 次の 1~10 の 線のカナに当てはまる漢字と、11~20 文中の 線の漢字の読み方を書き入れなさい。(1×20=20)

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| (1) 零戦を <u>シノグ</u> 戦闘機       | (2) 東洋の <u>イシズエ</u> となる     |
| (3) <u>キキイッパツ</u> のところ       | (4) <u>シゴク</u> 当たり前のこと      |
| (5) <u>ショクタク</u> 殺人          | (6) <u>シイ</u> に解釈してはいけない    |
| (7) 辺りは <u>セイジャク</u> に包まれている | (8) 夜盗術の <u>ゴクイ</u>         |
| (9) 鐘の <u>ヨイン</u> が残る        | (10) <u>シズ</u> かさや岩に染み入る蟬の音 |
| (11) <u>不細工</u> な石の斧         | (12) 規律が <u>頹廢</u> する       |
| (13) <u>凡庸</u> な耳            | (14) 仕事に <u>刻苦</u> する       |
| (15) 直ぐいたずらしたくなる <u>性分</u>   | (16) <u>融通</u> が利かない        |
| (17) 契約観を <u>駆逐</u> してゆく     | (18) 支配の具に <u>随</u> している    |
| (19) <u>邪惡</u> な考え           | (20) 人間を <u>峻別</u> する       |

二 次の言葉の使い方として最もよいものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。(1×10=10)

- (1) しなやか
- 彼女の手はしなやかしている。
  - 車がぶつかってしなやかにへこんだ。
  - あの選手の動きはととてもしなやかだ。
  - この床はよく磨いてあってしなやかだ。
- (2) ぶかぶか
- 大粒の雨がぶかぶか降ってきた。
  - 晴れた空に雲がぶかぶか浮かんでいる。
  - うちの子は食欲があって、ぶかぶか食べる。
  - この靴はぶかぶかで、歩くとぬげてしまう。
- (3) 終日
- この駅は終日禁煙だ。
  - 1 月は 31 日が終日です。
  - 明日はレポート提出の終日です。
  - 昨日の終日は音楽を聴いてゆっくりした。
- (4) 両立



か」と、話の途中で幾度も言ったことを今、思い出した。②あれは「耳で聞いたことを順躁りに理解しているのか」と、自分の信じるところを訴えていたんだなあ。

言葉というものは使う人によって、温度も色合いも違う。もしこれが統一されていれば、順序だてて理性的に会話をせずとも、誤解や勘違いやすれ違いはまったくなくなるのではないか。③映画や小説のなかで人々が交わす言葉は、たいていの場合、温度も色合いも統一されている。だからものごとは決まった時間、決まったページ数のなかで、理性的に展開され着地すべき場所に着地する。しかし実際の生活で、同じ温度、同じ色合い、無個性の言葉でしか会話できないとしたら、と考えると、なにやら殺伐としたものを感じてしまう。あくまで想像だが、戦時下などの有事のときは、ぎりぎりまで言葉から個性がそぎ落とされたのではなかろうか。

その人しか持ち得ない言葉があり、その人からしか受け取れない言葉というものがある。誤解をしたりすれ違ったりしつつ、それをまた言葉で訂正していく、ということも、案外人の持つゆたかさのひとつなのかもしれない。そう考えると、成立しなかったように思えた母との会話も、私たちにしかあり得ない関係のひとつだったと思え、そのことにちょっと安心する、

(8) ①「思うまま会話」とあるが、どのような会話か。

- 1 相手に通じないとあきらめて、初めから相手を理解しようとしな  
い会話
- 2 相手の話を十分聞かず、自分の言いたいことを言うだけでかみ合  
わない会話
- 3 相手が興味を持っている話題について、相手の話の流れに合わせて  
する会話
- 4 相手の話を聞いていて腹がたつ内容が含まれているので、口論に  
なりやすい会話

(9) ②「あれ」とは何か。



- 1 母とどんなことでもよく口論したこと
- 2 母に自分の話は通じないと決めつけたこと
- 3 母との会話が思うように進まず苛立ったこと
- 4 母に自分の話を聞いているのか何度も確かめたこと

(10) ③「映画や小説のなかで人々が交わす言葉」に対して、筆者はどのように思っているか。最も適当なものはどれか。

- 1 言葉の順番が決まっているので、会話が理性的である。
- 2 会話が順序だてて進まないで、個性的でありおもしろい。
- 3 言葉の使われ方もニュアンスも同じで、会話が予想どおりに進む。
- 4 会話の場面では、お互いが相手の話をよく聞くようになっている。

(11) 筆者は、はじめに会話がどのようなものだと考えていたか。

- 1 本来理性的であるが、誤解は当然生じるものだ。
- 2 すれ違いがあっても、苛立たずに聞くべきものだ。
- 3 相手の話の流れに沿って聞き、理解するべきものだ。
- 4 個性的であっても、その方が人間的だと感じられるものだ。

(12) 母と自分との会話について筆者は今はどう思っているか。

- 1 誤解が生じるような会話も、活発な口論になるので、おもしろい。
- 2 誤解が生じるような会話も、二人の個性が表れていて、悪くはない。
- 3 誤解が生じるような会話は、母のわがままな性格の表れで、受け入れがたい。
- 4 誤解が生じるような会話は、母が一方的に進めたことが原因なので、意味がない。

五 つぎの中国語を日本語に訳しなさい。(6+6+8=20)

I

16 世紀, 最终创建日本茶道的千利休把集中表现娴静、平和状态的“闲寂”作为追求的境地。从此, 这种境地深深地渗透到日本人的审美意识中。“古雅”也意味着一种带有古风和凋零的情趣。它也成为俳句大师松尾芭



蕉的基本理念。在两者的根基中都渗透出某种寂寥感，表现了一种摒弃奢华、崇尚简略的日本独特美的境界。

## II

作为体现日本人传统审美意识的词语，带有无垢脱俗之意的“潇洒”在江户时代得以成立。据传，在人们的举止言行受到种种制约的封建时代，冷静洒脱、并有着近代理性和感性的人们的新审美意识逐渐形成。虽然有些人叹息，传统意义上的审美意识在当今的日本社会中，已荡然无存。但是“处理得很潇洒（漂亮）”、“穿着很潇洒（得体）”等句子的运用至今仍大量存在。

## III

另外，自己尚未建立起权威的人往往采取一种极为狡猾的手段——利用有权威的人士来威胁对方。他们会说：“如果做了坏事，警察就会找上门的。”“我告诉父亲，让他来教训你。”“我会告诉老师的。”这种他律性的带有威胁性的语言已经成为一种习惯在人们的头脑中固定下来。一方面，它使自律性的、自发性的判断能力丧失殆尽；另一方面，只是一味地根据似乎存在于外界的极其奇怪的权威人士来判断自己。为了维护社会秩序的稳定，社会体制的捍卫者把顺从这种习惯的人看成是有道德的人而加以推崇。

## 六 作文 (30)

テーマ： 努力と独創性

注意事項：

- 1 450 字以上、500 字以内に収めること。
- 2 「だ・である」体を使用すること。
- 3 関係ない内容を避けること。



- 1 昨日は仕事と家庭を両立した。
- 2 勉強とアルバイトはなかなか両立しない。
- 3 何とかして父の希望も母の希望も両立したい。
- 4 駅の東口と西口に二つのデパートが両立している。

(5) よほど

- 1 寝坊して会によほど遅刻した。
- 2 電気がなかったころの暮らしはよほど想像できない。
- 3 この店のお菓子はよほどおいしいからすぐ売り切れてしまう。
- 4 この画家の場合、新しい作品より若いときの作品のほうがよほどおもしろい

(6) 執着

- 1 駅に執着したらすぐに連絡してください。
- 2 彼は勝敗に執着するタイプだ。
- 3 お気に入りのセーターを毎日執着しています。
- 4 船底にたくさんの貝が執着している。

(7) 禁物

- 1 飛行機にうっかり禁物を持ち込もうとして注意された。
- 2 ここで魚を捕ることは禁物されています。
- 3 自信があっても油断は禁物です。
- 4 銃は許可なく持ち歩いてはいけない禁物なのものの一つだ。

(8) そらす

- 1 木村はちょっと席をそらしております。
- 2 古くなった看板をそらして、新しいのにかえた。
- 3 忙しくて昼ご飯をそらした。
- 4 彼は都合が悪くなると、いつも話題をそらす。

(9) ずらっと

- 1 本にずらっと目を通した。
- 2 東京は、明日はずらっと晴れるようですよ、
- 3 あの人はずらっと背が高い。
- 4 店の前にずらっと人が並んでいる。

(10) 不順

- 1 今年是天候が不順で野菜が高い。
- 2 子供たちが不順に並んでいた。
- 3 不順に練習しても上手にならない。
- 4 このところ、会社の成長が不順で心配だ。



三 次の文の\_\_\_\_\_に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ

びなさい。(1×22=22)

(1) 私たちは、彼の突然の辞職に、戸惑いを\_\_\_\_\_。

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 おぼえさせた   | 2 余儀なくさせた |
| 3 感じきれなかった | 4 禁じえなかった |

(2) 自分の目で確かめない限り、そんな恐ろしいことは誰も\_\_\_\_\_。

- |        |          |
|--------|----------|
| 1 信じまい | 2 信じかねない |
| 3 信じよう | 4 信じきれ   |

(3) このような結果は十分予想できたことであり、驚くほどの\_\_\_\_\_。

- |           |          |
|-----------|----------|
| 1 わけではない  | 2 ようではない |
| 3 ところではない | 4 ことではない |

(4) そんなに頼むなら、その仕事を代わって\_\_\_\_\_。

- |           |              |
|-----------|--------------|
| 1 やらないものだ | 2 やらないものでもない |
| 3 やったものだ  | 4 やったものでもない  |

(5) あとは表紙をつけるだけだから、クラスの文集はもう\_\_\_\_\_。

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1 できないのも無理はない | 2 できないも同然だ |
| 3 できるのも無理はない  | 4 できたも同然だ  |

(6) どんな安全な地域でも、ドアの鍵を二つつけるなど\_\_\_\_\_。

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 用心するにこしたことはない | 2 用心するにたりない |
| 3 用心したくてならない    | 4 用心しがいがいい  |

(7) 事故はあまりにも突然で、私は何もできず、ただ\_\_\_\_\_。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 ぼう然とするまでもなかった | 2 ぼう然としがちだった    |
| 3 ぼう然とするのみだった   | 4 ぼう然とするきらいがあった |

(8) 試験終了時間まであと数分だから、この問題にそんなに時間をかけては\_\_\_\_\_。

- |         |          |
|---------|----------|
| 1 かなわない | 2 しかたがない |
| 3 いられない | 4 いなめない  |

(9) 美しかった森林が、開発のためすべて切り倒され、見るに\_\_\_\_\_。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1 たえない   | 2 たえる |
| 3 たえていない | 4 たえた |

(10) 健康的にやせるためには、薬を飲んだり食事を抜いたりするより、まずよく体を動かす\_\_\_\_\_。



## 2 ことだ

#### 4 始末だ

(11) 小学校からずっと仲のよかった彼女が遠くに引っ越すのは、寂しい\_\_\_\_\_。

2 に限る

4 にほかならない

(12) 台風の被害にあった人々のため、一日も早い生活環境の整備を  
\_\_\_\_\_。

## 2 願うわけでもない

#### 4 願わずにはいられない

(13) 首相が誰になるかは、日本の将来\_\_\_\_\_ことだ。

## 2 にかかわる

4 に相違ない

(14) この地域の再発見に自分がかかわることになろうとは\_\_\_\_\_。

1 想像すらしていなかった 2 想像することができた

3 想像さえしたわけだ      4 想像しないではいけない

(15) この作品の芸術的価値は高く、十分、今回の展覧会に出品する

2 にすぎない

#### 4 にこたえる

(16) 就職が決まらなくても困らない。アルバイトをして生活する  
\_\_\_\_\_。

2 かわりだ

4 ほとだ

(17) 新しく来たコーチに対する彼の態度は、コーチとして認めないと\_\_\_\_\_。

## 2 言いがたい

#### 4 言わなくもない

(18) 君たちが成功するかどうかは、与えられたチャンスをどう使うかに\_\_\_\_\_。



- |          |          |
|----------|----------|
| 1 たえない   | 2 かかっている |
| 3 かなっている | 4 あたらない  |

(19) 地元の住民の反対を無視した開発は\_\_\_\_\_。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 進めずにおくものか | 2 進めるべきだ    |
| 3 進めずにはおかない | 4 進めるべきではない |

(20) 国際交流を進めるには、相手を理解しようとする姿勢\_\_\_\_\_。

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 は否めない  | 2 をかえりみない |
| 3 が欠かせない | 4 を異にする   |

(21) あの企業が相手では、高層ビル建設の反対運動をしたところで、建設の計画は中止に\_\_\_\_\_。

- |          |            |
|----------|------------|
| 1 なるだろう  | 2 ならないだろう  |
| 3 なるばかりだ | 4 ならないばかりだ |

(22) 体を鍛えようとジョキングを始めたが、走りすぎて膝を痛めてしまい、病院に通う\_\_\_\_\_。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1 結果だ | 2 始末だ |
| 3 一方だ | 4 のみだ |

四 次の三つの文章を読んで、後の問いに対する答えとして最も良いものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。(4×12=48)

# I

調べることと書くことは、もっぱら私のようなジャーナリストにだけ必要とされる能力ではなく、現代社会においては、ほとんどあらゆる知的職業において、一生の間必要とされる能力である。ジャーナリストであろうと、官僚であろうと、ビジネスマンであろうと、研究職、法律職、教育職などの知的労働者であろうと、大学を出てからつきたいの職業生活のかなりの部分が、調べることと書くことに費やされるはずである。①近代社会は、あらゆる側面において、基本的に文書化されることで組織されているからである。

人を動かし、組織を動かし、社会を動かそうと思うなら、②いい文章



が書けなければならない。いい文章とは、名文ということではない。うまい文章でなくてもよいが、達意の文章でなければならない。文章を書くということは、何かを伝えたいということである。自分が伝えたいことが、その文章を読む人に伝わなければならない。

何かを伝える文章は、まずロジカルでなければならない。しかし、ロジックには内容(コンテンツ)がともわなければならない。論より証拠なのである。論を立てるほうは、頭の中の作業ですむが、コンテンツのほうは、どこからか材料を調べて持ってこなければならない。いいコンテンツに必要なのは、材料となるファクトであり、情報である。そこでどうしても調べるという作業が必要になってくる。

(1) ①「近代社会」とあるが、筆者はその特徴をどのようにとらえているか。

- 1 官僚でも、ビジネスマンでも、研究者でも活躍できる社会
- 2 文書が作られ、それに基づいて人や組織が動いている社会
- 3 法律職などの知的労働者が作成した文書に従って動いている社会
- 4 大学を出てから職業につく人があらゆる場面で必要とされる社会

(2) ②「いい文章」とあるが、筆者はそれをどのようなものと考えているか。

- 1 調べることと書くことに時間を費やした文章
- 2 人々を感動させて社会を動かそうとする文章
- 3 自分の伝えたいことが相手に十分伝わる文章
- 4 小説家が書くような豊かな内容の文章

(3) いい文章を書くために必要なことは何か。

- 1 論理を組み立てることと、論理を支える情報を調べること
- 2 論理とそれを支える証拠を頭の中で組み立て、見つけだすこと
- 3 ジャーナリストが持っているような知的能力を身に付けること
- 4 ジャーナリストだけでなく、あらゆる職業生活について知ること

## II

来世紀に向けて、個人レベルであれ地域社会・地球規模であれ、科学技術の進歩ゆえにいつそう複雑になっていく問題に対して、個人が判断しなくてはならない局面が増えていくことだろう。その時に自分なりに納得のいく判断を下すためには、科学に無関心・無理解を決めこんだりせず、ふだんから科学に目を向け、科学的な考え方にふれている必要があるだろう。つまり、①科学と社会を結びつける良質の情報が必要なのである。



その情報は自分の行動に役立てるために受信するだけではなく、場合によっては、自ら責任ある発信者となるために役立てることも大切である。

残念なことに、科学者がもたらした成果は、そのままでは判断材料としては②役立たないことが多い。まず、専門用語ゆえに科学はとり付きにくい。科学は高度になり細分化したために、領域が異なれば科学者でも理解が困難な状態になってしまっている。良質の情報は優れた表現能力をとみなわなくてはならないが、実際のところ、研究に専念している科学者には時間的余裕がなく、そうした表現能力を磨くいとまもないのが普通である。

一方で、③科学者にも良質の情報が必要である。科学者は何かしら新しいことを世界に先駆けて発見・発表することに熱中するものである。その結果が化学・生物・核兵器の開発に加担することはないか、あるいはわれわれの生活ないしは地球という生態系に思いもよらぬ影響を与えることがないかに思いを馳せる機会は、必ずしも多くはない。こうした点に関して、科学者が外部から指摘される必要がある。

そこで、最先端の科学の研究成果とその社会的意味を科学に慣れ親しんでいない人に、また社会的意味については科学者に対しても改めて説明する人材、つまり科学の「インタープリター」が必要とする。インタープリターは専門用語の単なる直訳者ではなく、問題を指摘し、進むべき方向を示唆する、科学と実生活の橋渡しをする解説・評論者である。かれらがかけるその橋は、専門化した科学技術を公開して市民を啓蒙するという一方通行のものであってはいけない。インタープリターには科学者がふだん忘れがちな社会への波及効果、倫理的問題、他の科学技術や学問分野の連繋の可能性なども鋭く指摘してほしい。また、一般の人の科学に対する素朴な疑問の中からインタープリターが斬新な考えを吸い上げることで、科学者は思いもよらぬ発想転換のヒントを得られることも考えられる。

現在でも優れた作家、評論家、科学者、ジャーナリストなどが先端科学のインタープリターとして活躍しているが、21世紀に向けてその活躍はますます期待されている。

- (4) ①「科学と社会を結びつける良質の情報が必要なのである」とあるが、この「良質の情報」とは何か。

#### 1 一般の人にも役に立つ科学に関する情報



- 2 複雑な社会の問題に関係のある科学的情報
  - 3 科学者が研究のヒントにできるような情報
  - 4 社会に大きな影響を与える科学に関する情報
- (5) ②「役に立たないことが多い」とあるが、筆者はどうしてそう思うのか。
- 1 科学者には複雑な問題を考える時間的余裕がないから
  - 2 科学者がもたらした成果は社会的意味があまりないから
  - 3 科学者の発表する研究成果は一般の人には理解が困難だから
  - 4 科学が高度になり、一般の人は科学に関心を持たなくなったから
- (6) ③「科学者にも良質の情報が必要である」とあるが、筆者はどんな情報が必要だと言っているか。
- 1 自分の研究成果が、社会生活や地球環境などに、どんな影響を与えるかを示す情報
  - 2 自分の研究を、科学に慣れ親しんでいない人に、わかりやすく解説する方法を教える情報
  - 3 自分の領域とは異なる研究の成果が、自分の研究にどのような影響を与えているかを示唆する情報
  - 4 自分の研究に対して、領域の異なる科学者や一般の人はどんな関心を持っているかを知るための情報



(7) 筆者は、インタープリターが科学者に対してどのように働きかけることを期待しているか。

- 1 科学の研究成果がどのような社会的問題を引き起こすかについて、調べるように指導すること
- 2 一般の人の科学に対する疑問に答えられるように、科学者が表現能力を磨くことの重要性を訴えること
- 3 作家、評論家、ジャーナリストがさらに活躍できるように、研究成果をできるだけ早く公開するよう促すこと
- 4 科学者の気づかない問題点を指摘し、他分野との協力の可能性や研究のヒントになるような情報を提供すること

### III

人の会話というのは、言葉としては案外成り立っていないことが多い。ずっと昔、母親と話をしていたそう痛感したことがある。

たとえばの話。私が母に「このあいだより太ったみたいだけれどどうしたの」と訊く、すると母は「服を買いにいったら大きなサイズの店にいけと言われて腹がたった」と続ける、「甘いものを食べ過ぎなんじゃないの」と私が言うと、「どこそこの店の太福を買ったらまずくて食べられたものじゃなかった」と母は言う。

このように書き記してみれば、会話としてまったく成り立っていない。双方が双方の思うままを口にしているだけである。

私はこの母とよく口論になった。この①「思うまま会話」がどんどん進んでいくと、最後に決まって母は「小説なんか書いてないで結婚したらどうか」という方向に結論づけ、「あなたが太った話がなぜ私の結婚問題に結びつくのか」と私が突っかかり、口論になるわけである。この口論だってもちろん、会話としては成り立っていない。その都度、「母に私の言葉は通じないのだ」と腹立ち紛れに思ったものだった。

しかしひょっとしたら、通じないと決めつけた私は、会話というものは「相手の言うことを耳で聞き、順繰りに理解する」はずだと信じていたのかもしれない。信じているふうに会話が進んでくれないことに、苛立っていたのかもしれない。そういえば、「私の話をちゃんと聞いているの